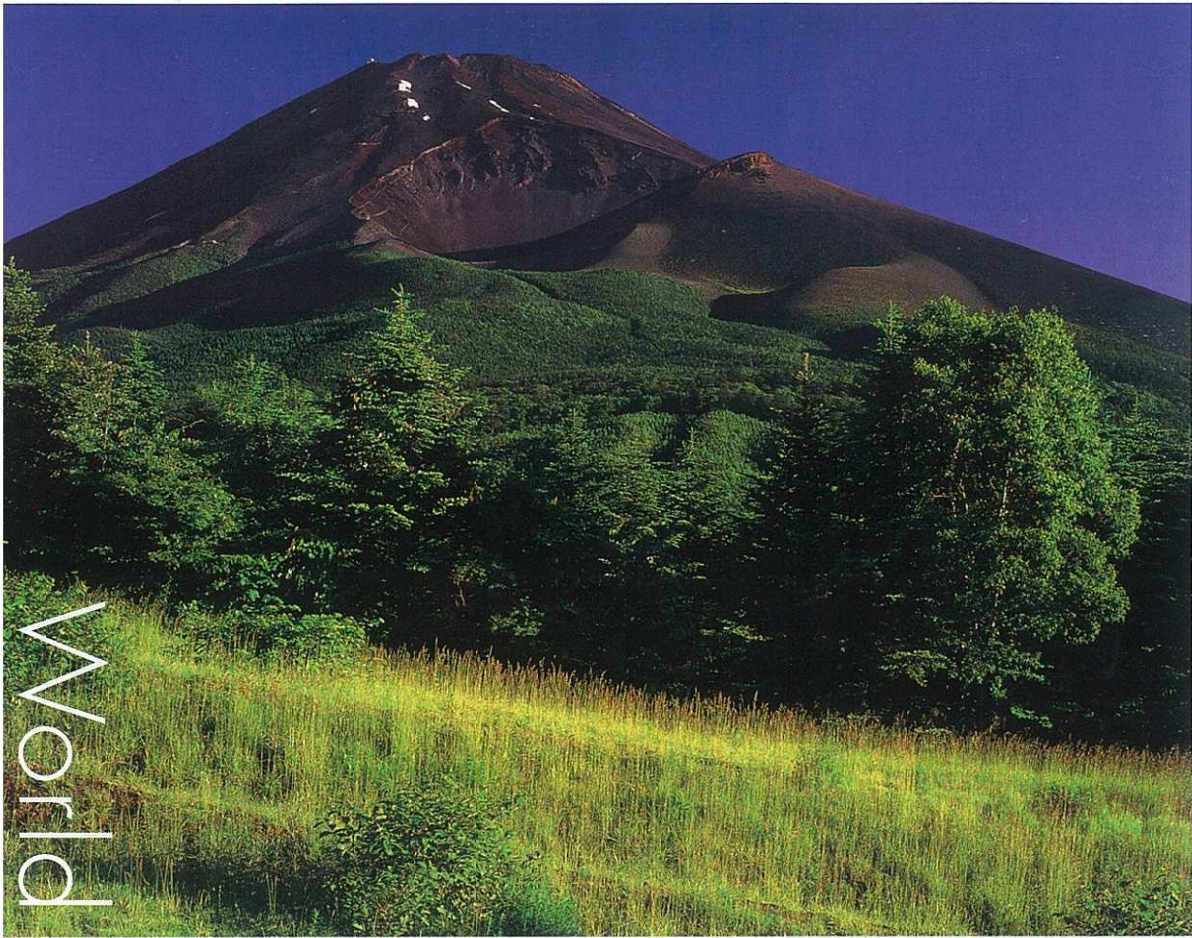


富士山を世界文化遺産に!



World Heritage News Letter

News List

- ◎富士山 ― その文化的景観 ―
静岡県学術委員会委員 東 恵子
(東海大学開発工学部感性デザイン学科教授)
- ◎シリーズ「構成資産候補の紹介」『お鉢巡り』『御中道』
- ◎富士山を守ろう! 『富士山を訪れるにあたってのマナー』
- ◎世界遺産用語解説『コアゾーン』『バッファゾーン』

富士登山シーズン到来!

7月1日、富士山のお山開きが行われ、いよいよ本格的な登山シーズンを迎えました。今年も多くの方が、それぞれの思いを胸に山頂を目指されるのではないのでしょうか。その皆さんの思いがまさしく「富士山」が持つ価値であり、その思いが集結したときに「富士山」の世界遺産登録が実現するのではないかと思えます。『富士山を世界文化遺産に!』を合言葉に皆さんのご協力をお願いいたします。



【7月からラッピングバスも運行中!】(富士宮口5合目まで)

富士山——その文化的景観——

自然と人の営みで磨かれた景観は新たな価値を創造する

富士山は、優れた自然的価値を基盤とし、信仰、芸術と深いつながりを持ち日本文化の源として、畏怖の対象から親しむ対象へ別世界の存在から現実の存在へ、遠望する対象から体験すべき対象へと変化する時代のなかで、変わらぬ日本人の精神的なよりどころとなっている。

また、約1万年前 富士山が大噴火により誕生した。その富士山と私たちの対話から様々な詩歌や絵画、工芸、文学などの芸術作品を多く生み出したとともに、そのすそ野に広がる土地と豊富な水により地域の暮らしの豊かさ、東西交通の要所として日本の社会、経済、歴史、文化を築いてきた。

日本は森の国であると同時に山の国である。山が身近に存在することで、深く日本人の精神文化、生活文化の基盤にな



静岡県学術委員会 委員 東 恵子
(東海大学 開発工学部 感性デザイン学科 教授)

っている。古来、神降りし立ち住む場所、あるいは神そのもの、祖先にあえるところ、宗教的修行の場であり、西洋の山と大きく異なる。

そのなかでも富士山は、静岡県と山梨県にまたがり3776mの日本の最高峰である。高山大嶽に類し円錐形のコニード型は、神体山の典型であり秀麗な山容をもち、平地から仰ぎ見ることのできる独立峰である。その稜線は、シンメトリーでなだらかな美しい弧がりをもつ。冬は、中腹まで雪で覆われその美しさを増す。

私たちの知覚は、規則的で、シンメトリーでかつ安定した形態を創り出そうという働きをもつ。特に自然界に稀な抽象図形、明瞭なかたちをなすものに目が向き、また見たいという心情が起きる特徴をもっている。その特徴を備えた富士山は、強力な靈感、神の威力と見られ、概念を介在させることが必然的にうまれたのであろう。私たちの心をとらえて離さない富士山はその山容にあるといえる。特に活火山時代の富士山は、天を突く高さ、冠雪 噴煙をあげる姿の特異な光景は、その雄大さ・神々しさを讃え、富士山に神仏が宿するという信仰へ結びついていったのであろう。

また、富士山は眺望地点が多いことも特徴である。標高が高いということがその要因であるが、可視範囲は、東北方面、南西方面200kmをこえ、その山容が単純明快なことから各地からの風景に小さくてもシンボリックな存在として視認される。全国に「富士」という名のつく山は350以上あることなどは、日本人の富士へのかかわりの深さを表しているものといえる。

日本人の時と積み上げられた「こころ」文化ともいえる「富士山」を世界の文化遺産として後世に引き継ぐ義務があると、世界文化遺産暫定リストに登録され、現在、多種多様な自然的・人文的構成要素を含み「富士山」総体として確実に保存し、次世代に継承していくために構成資産保存管理計画を策定する作業が始まっている。

富士山の肥沃な平坦地と湧水の水源を得て産業発展した近・現代は、価値ある風景的財産を失うことに無頓着であったことも事実であろう。また現在、構成資産候補としてあげられる候補地では、その資産価値が無造作に放棄されている実態を目にする。

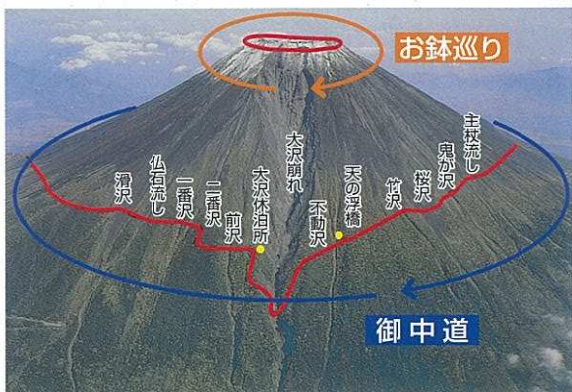
今、あらためて、私たちひとり一人が、富士山とともに暮らしてきたアイデンティティを見つめなおし、富士山と私たちの営みのその相互作用によって生み出される景観は、文化的景観として価値を持つことを認識したい。

自然と人の営みで磨かれた景観は新たな価値を創造する景観価値への共通認識を持ち、その具現化のためのルールづくりが急務である。

また、その実現には市民やNPO団体、企業、自治体など立場や役割の異なる人々の力が不可欠であり、その協働による取り組み、連携力なくしては成り立たない。各地域での「わがまちから見える富士山が一番美しい」という自負心の総力を世界の人々への共有価値として富士山の世界文化遺産登録につなげたい。



今回は、かつての富士登山の様子に触れながら、静岡・山梨両県共通の資産候補の「お鉢巡り」と「御中道」を紹介します。



お鉢巡りと御中道の様子(赤線が実際のルート)
(国土交通省富士砂防工事事務所「ふじあざみ第30号」より)

「お鉢巡り」とは、富士山頂の噴火口の周囲を一周する約4kmの道(あるいはそこを歩くこと)です。また、「御中道」は、標高23000〜28000m、宝永山のすぐ上あたりを一周する約25kmの道のことです。修験者や富士講の人々にとっての修行の道として使われていました。

修験者は、平安時代末期〜江戸時代初期を中心に、霊山である富士山にさまざまな苦しみを経て登拝し、験力を授かること、すなわち「禪定」を目的として登山しました。一方、富士講の人々は、江戸時代中期より急増し、登

信者たちは、薬師堂で富士山本宮浅間大社の役人により登山切手を改められた後、出発します。内院(噴火口)に賽銭を投げ、御来迎(朝日に照らされた登山者の影が反対側に映るプロツケン現象)を礼拝、途中にあるいくつかの仏像を拝みながら、大日堂(現在の浅間大社奥宮)の大日如来、最高峰の剣ヶ峰、釈迦割石、霊泉とされた金明水などを巡礼しました。剣ヶ峰以降は、尾根に沿って行く外浜道と、内院

山や「御中道」巡りによって、絶対神である「元の父母」との一体化を目指し、その回数を重ねるほど、大行を成し遂げた人として尊敬されました。

「お鉢巡り」

かつては山頂噴火口の周囲の峰々を、仏の台座である蓮の花に見立て「八葉」と称していました。それが、後に噴火口のすり鉢状の形状より「お鉢」となり、「お鉢巡り」と称されるようになりました。

「お鉢巡り」自体は戦国時代から行われ、武田信虎(信玄の父)が行ったことが記録されています。江戸時代の富士講信者の多くは、山梨の吉田口や静岡の須走口から登山し、頂上の薬師堂(現在の久須志神社)から時計回りに山頂を巡っていきました。

の周りを巡る内浜道がありました。

当時は神仏習合の時代であり、富士山の神は大日如来が姿を変えたものと考えられていたので、仏像が数多くあったのです。

明治初期、廃仏毀釈により山頂の仏教的施設は撤去され、仏の名にちなんでつけられていた峰々の名も変えられました。したが、「お鉢巡り」は今に至るまで続いています。

ただし、現在は危険防止のため、江戸時代のルートの一部は通行禁止となっています。

「御中道」巡り

修験道の祖とされる役行者が始めたと伝えられ、戦国時代末期、富士講の基礎を築いた長谷川角行が行ったことが記録されています。富士講の人々にとって、大沢崩れを渡るといふ危険を伴う「御中道」巡りは、登山以上に重要な最上級の大行でした。

富士登山3回以上の経験を持ち、誓約書を御師に提出し、神への伺いをたてた上でないと許可されないほど厳しいものでした。また、道案内料も金二分(一ヶ月の平均賃金)もかかり、簡単にできるものではありませんでした。

大沢崩れでは、江戸時代は「二の越」と呼ばれた2800m付近を渡っていました。昭初期には500mも下った「三の越」に道が変更されました。しかし、ここも昭和

52年(1972)の転落事故で通行止めとなり、現在では「御中道」を一周することはできなくなっています。

「御中道」は富士山の森林限界にほぼ一致しているため、ある場所では森林を、別の場所では砂礫をと、景観の変化を楽しむことができます。その様子から昔の人々は、森林地帯の「木山」と砂礫地帯の「焼山」の境である五合目から「御中道」までを、「天地境」としていました。神仏の世界でもあり、死の世界でもある「焼山」に入り、そこから帰ってくることは、この世の罪と穢れを消すという意味を持ったのでした。それは富士講の人々が登山の際に唱える「六根清浄」という言葉に象徴されています。



仏石流し付近の御中道

※1 山岳での修行によって身に付けた超自然的な力
※2 富士山・白山・立山などの霊山に登り、行者が修行すること

富士山を 守ろう!

一人一人の小さな心掛けで、美しく雄大な富士山をいつまでも残していくことができます。私たち日本人にとって、かけがえのない「宝物」である富士山を良好な状態で後世に継承していくため、富士山を訪れる際のマナーとルールを守りましょう。

ゴミは持ち帰りましょう

自分のゴミだけでなく、他の登山者が落としたゴミも積極的に拾い、持ち帰りましょう。

登山道から外れない

登山道を外れて歩くと、崩れやすく落石を誘発して危険です。また、富士山特有の植生を傷める可能性があります。

動物を連れ込まない

富士山に生息する動植物に害を与える恐れがあります。富士山の自然環境を守り、野生鳥獣保護のため、ペット等を連れ込まないようにしましょう。他の登山者の迷惑になる場合もあります。

オフロード車等乗り入れ規制

富士山の中腹部から上は、自然公園法の特別地域に指定されており、車両等の乗り入れが制限されています。

山小屋トイレのマナー

- 登山前にトイレは済ませましょう。
- トイレはきれいに使いましょう。
- トイレの方式によって、管理方法が異なります。山小屋の指示やトイレ内に書いてあるルールに従いましょう。
- トイレにゴミを投げ入れないようにしましょう。
- トイレトイレットペーパーか水に溶けるティッシュペーパー以外は使わないようにしましょう。
- 富士山のトイレは多くがチップ（協力金）制で、200円が一般的です。トイレの維持管理のため、御協力をお願いします。

アイドリングをしない

アイドリングは、富士山のきれいな空気を汚し、生態系に悪影響を与えます。美しい富士山を守るため、アイドリングはやめましょう。

動植物をとらない

富士山の動植物は、特殊な環境の中で一生懸命生きています。自然の仲間ですので、温かく見守りましょう。

登頂記念の落書きはしない

富士山にある施設や石などへの落書き、石を動かして文字や絵を描く『石文字』による落書きはやめましょう。富士山の景観を壊すだけでなく、特殊な環境の中で生育する生物に悪影響を及ぼす恐れがあります。

特別保護地区での禁止行為

- 植物の採取・損傷
 - 動物の捕獲・殺傷
 - 土石の採取
 - たき火など
- 許可なく行くと罰せられます。



【コアゾーン、バッファゾーンのイメージ図】

◎世界遺産用語解説

「コアゾーン」

世界遺産に登録される区域のこと。

日本では、世界文化遺産のコアゾーンについては、資産の恒久的な保護を担保するため、文化財保護法による国文化財の指定を受けなければならない。

「バッファゾーン」

コアゾーンを保護するための緩衝地帯として、周囲に設けなくてはならない区域のこと。日本では、法律や条例等に基づく利用規制などが必要とされる。

富士山の場合、個々のコアゾーンの周囲及びすべてのコアゾーンを含む範囲へのバッファゾーンの設定（イメージ図参照）が検討されている。